

【平成 27 年 3 月期 第 2 四半期 アナリスト・機関投資家向け決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。なお、文中は年度で表記しております。

<日 時> 2014 年 11 月 18 日 (火) 9:00~10:30

<出席者> 明治ホールディングス(株) 代表取締役社長 松尾 正彦

明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 平原 高志

(株)明治 代表取締役社長 川村 和夫

Meiji Seika ファルマ(株) 代表取締役社長 小林 大吉郎

**Q1) 乳製品事業・菓子事業・健康栄養事業の営業利益率について、次期中期経営計画ではどの程度の水準を計画し、また、それを達成するためにどのような戦略を考えていますか。**

A1) 来期から始まる次期中期経営計画は現在策定中のため、数値は決定次第、発表いたします。各事業において成長ドライバーとなっている商品群が順調に推移しています。それらを、いかに安定的かつ継続的に成長させていくということが一番の課題と考えています。

**Q2) 菓子事業では新商品数を削減していますが、さらなる収益性改善に向けた次の戦略についてどのような様子を考えていますか。**

A2) 来期以降もさらに新商品数を削減し、事業効率を上げていくことが基本路線です。併せて、「おいしさ・楽しさ」のキーワードに加えて「健康軸」と「プレミアム軸」を成長要素として取り込み、チョコレートカテゴリーを着実に成長させたいと考えています。

**Q3) 食品セグメントの海外事業についてはどのように取り組んでいますか。また、今後の海外戦略はどのように考えていますか。**

A3) 海外事業の 14 年度見込みは、単純合算で 600 億円程度の売上規模となっています。現在、中国、東アジア、米国に進出しており、その中で今後最も成長が見込めるのは中国と考えています。中国では、華東地域と華南地域に集中して展開しています。13 年 12 月に牛乳・ヨーグルト工場を蘇州に稼働させました。約 1 年が経ち、手応えは十分感じています。今後は、商品回転率の向上や商品数を増やすことで、中国における売上規模を現在の 3 倍程度に拡大したいと考えています。

**Q4) 食品セグメントにおける今後の構造改革余地はどの部分にあると考えていますか。また、構造改革効果はコストアップの影響以上に出せると考えていますか。**

A4) 意欲は十分あります。しかし、為替を中心に弊社がコントロールできないコストアップについては、来年度は非常に厳しいと考えています。現中期経営計画の構造改革は、各事業での非効率や無駄な部分を徹底してなくしてきました。次期中期経営計画では、全社的枠組みでのコストダウンにチャレンジしたいと考えています。一つの取り組みとして、中部地区におけるチルド物流拠点と常温物流拠点の融合を進めています。配送車両の削減やチルド商品と常温商品の混載物流などに取り組みます。

Q5) 「TAKE OFF 14」では、医薬品セグメントの14年度営業利益を当初100億円と計画されていましたが、今期計画では76億円に修正されています。次期中期経営計画では100億円を安定的に出すことは可能ですか。

A5) 現在、医療用医薬品の中でも特に利益率の高い戦略品目に経営資源を集中させています。低価格化の進むジェネリック医薬品では、製造面におけるローコストオペレーションを推進しています。さらに、インドのメドライク社買収による業績貢献も期待できます。加えて、現在開発中の統合失調症治療薬アセナピンを順調に上市させ、中枢神経系領域における弊社の強みを成長ドライバーにしていきます。以上の様な施策で営業利益100億円を実現させたいと考えています。

以 上